

平成25年5月15日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀 伊 國 献 三 殿

施設名 福岡県糟屋郡志免町別府西 3-8-15
社会医療法人 栄光会 栄光病院
代表者 理事長 下稲葉 康之



2012年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 研究・研修事業 2012年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業
- 2 期 間 2012年 4月 1日 ～ 2013年 3月 31日
- 3 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
※ 上記 I. ～ III. については別紙参照下さい
 - IV 収支報告
 - ① 助成金の使途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
 - ② 当該助成金に関わる部分の決算書「写」
(提出予定日 平成25年6月10日)
 - v 研修修了者報告書

以上

I. 事業の目的・方法

1) 目的

末期がんやその他の重篤疾病による死亡者が年々増加する中、ホスピスや緩和ケア病棟に従事する熟練ドクターの不足は深刻である。そしてこのことは、一般病院・一般病棟におけるターミナルケアに対する認識・取り組み・経験が未熟であることの一因にもなっている。

ホスピス・緩和ケア体制の充実のためには、これらに関心のあるドクターを育成し、ターミナルケアの裾野を広げることが極めて重要となっている。

したがって、

- ① ホスピス・緩和ケア病棟に関心のあるドクターに対する専門教育
- ② ホスピス・緩和ケアの教育体制の確立と充実
- ③ 一般病院・病棟におけるターミナルケアに関する意識の向上
- ④ 一般病院・病棟における緩和ケア体制の充実

を、目指すことを目的として、ホスピスドクターの研究・研修活動を実施する。

2) 方法

- ① 笹川記念保健協力財団に申請し指定されたドクターに対し、指定された期間に実習を実施する。

- ② 研修担当者による打ち合わせ

- ・ スケジュールについて
- ・ 講義内容及び担当について
- ・ 実習内容及び担当について
- ・ 院内刊行物等関連資料の提供

「いのちの質を求めて」「幸福な死を迎えたい」（何れも いのちのことば社刊）等

栄光病院理事長（ホスピス主監）執筆図書

「手と目と」（病院機関誌）「栄光ホスピトラ」（NP0 法人栄光ホスピスセンター機関紙） 等

- ③ 研修開始

- ・ 講義及び実習の進行状況把握、調整
- ・ 研修の目的が達成できているか、毎週金曜日に懇談会を持ち確認を行い修正する。

Ⅱ. 研究・研修内容、実施経過

1) 研究・研修計画及び内容

期 間	講 義 及 び 実 習
4 月	(講義) ① ホスピスケアの精神と医療・看護のあり方 理事長 下稲葉 康之(ホスピス主監) ② ホスピスドクターの理念と役割 ホスピス長 吉田 晋 ③ ホスピスの歴史と今後 ホスピス医長 下稲葉 順一 (実習) ホスピス医について患者・家族へのケアの実際を学ぶ
5 月 ～ 6 月	(講義) ① コミュニケーションの取り方 ホスピス医長 下稲葉 順一 ② " チャプレン 清田 直人 (実習) 回診におけるコミュニケーションの実際
7 月 ～ 9 月	(講義) ペインコントロール及びその他の症状コントロール ホスピス長 吉田 晋 【反省検討会】半年間をふりかえって 講義・実習に対する質疑・検討 (実習) 症状コントロールの実際
10月 ～ 11月	(講義) ① チームケア 看護部長 中島 長子 ② 霊的ケア チャプレン 清田 直人 ③ 医療相談とホスピス利用 相談室室長 的野 修一 (実習) チームにおけるそれぞれの役割とその実際
12月 ～ 1 月	(講義) ホスピスにおけるインフォームドコンセント 理事長 下稲葉 康之(ホスピス主監) (実習) インフォームド・コンセントの実際
2 月	(講義) ① 社会的ケア(家族・遺族へのケア) 栄光病院院長 青戸 雄司 ② 在宅ケア 訪問看護ステーション責任者 関 泰子 (実習) 外来・往診・在宅ケア見学 他施設 見学・研修 淀川キリスト教病院 ホスピス病棟にて
3 月	(講義) ボランティアの役割とトレーニング 看護部長 中島 長子 【反省検討会】1年間をふりかえって 講義・実習に対する質疑・検討 (実習) ボランティア活動への参加

- (注) *
- * 講義は各セッションの早い時期に実施し、引き続いて、実習に入るものとする。
 - * 実習はホスピススタッフがマンツーマンで指導する。
 - * 職員朝礼 月・水・金 8:30 及び緩和ケア病棟申し送りには毎回参加する。
 - * 月曜日及び木曜日午後 ホスピスカンファレンスに参加
 - * 葬儀等がある場合は極力参加するものとする。

2) 実施経過

1) ホスピスドクター研究・研修計画に基き実施

① オリエンテーション

- 研修全期間のスケジュール・内容
- 研修期間中の心得

② 病棟におけるオリエンテーション

- 病棟の構造
- 一日の流れ（日勤・夜勤）
- 研究・研修体制、担当者の紹介
- 患者紹介

③ 講義・実習の開始

- ホスピス専従医師を中心にマンツーマン方式により実践

④ 進行状況をチェックし、講師及びホスピス専従医師と時間調整を行う。

⑤ 毎週末に、懇談会を行い効果的な講義・実習になるように調整・修正する。

2) 評価

① 研修生と担当者・関係者と懇談

- 研修全体について、評価・反省・感想を尋ね
- 目的が達成されたかを確認

② 研修レポートの提出を要請

③ レポートの内容と実習状況より評価を行う。

3) 修了・反省会

※本来は年度末に懇談会を開催し、研修生及び講師陣が集い、1年間の研修の成果・反省等を話し合い、次期の研修に反映させる 積りであったが、研修生が3月中旬より体調を崩し長期療養状態になった為所期の対応ができなかった。

Ⅲ 成果

ホスピスドクター研究・研修は2003年度及び2009年度に続き3回目の実施となったが、研修生本人が研修・実習から習得した成果にとどまらず、研修生の努力によって病院側が得る内容も多いものとなった。

1 講義関連の成果

ホスピス精神に関連する講義から始まり、ペインコントロールなど実務に直結する講義など、基本的にはスムーズに進んだ。同時に、理事長・会長・チャプレン等の講義に終えて、研修生本人が別掲の機関紙に「ホスピスは現在、癌とエイズ患者さんに対象が限られているが、実際にはホスピスのケアが必要な病気は多岐に渡る。…」と記しているように、ターミナルケアの対象と深さについて更に認識を深める場となった。

2 実習関連の成果

① ペインコントロール・インフォームドコンセントに関して

期間を通じて主治医として合計89名(1月当たり16～26名)のホスピス入院患者及びその家族と関わった。しかしペインコントロール・インフォームドコンセントなどは、患者や家族それぞれがケースバイケースで異なる処置あるいは対応が必要であり実習を通さないと体得できないホスピスケアの難しさを痛感し学ぶ場となった。

② チーム医療・ボランティアとの関わりなど

期間を通じてチーム医療やボランティアの役割の実際を学ぶ場となったが、チーム間における密接なコミュニケーションの必要性、ボランティアの位置づけ及び有効な組織化などの必要性を学ぶ場となった。研修生自身が妙齢の女性であり同年代の女性が多数を占める Nrs. との関係にも苦慮した様であるが本人の本来の協調性の高さで努力が周囲から高く評価され、早期に病棟内での信頼も獲得した。同時に患者とのコミュニケーションの重要性も良く認識した様で、その成果として'13年2月2日に開催された『栄光ホスピス実践セミナー2012 第3回講座』において“栄光ホスピスにおける全人的ケア・チームアプローチの実際 ～Aさんらしさを支えたい～”と題した発表として結実した。

③ 在宅ホスピスケアに関して

そもそも該研修生がDr.になった動機の一つとして“在宅医として貢献したい”というものがあつたと聞いている(また、その分野の学会にも所属している)。それだけに在宅ホスピスに対するマインドは高く、研修機関を通じて2-①とは別枠で主治医として5名の在宅ホスピスに携わった。在宅ケアの困難性(家族の援助、医療者側の負担)について身を以て体験したものの一方でその充実感・達成感を味わい、将来に向けての自信を得ることになった。

④ その他

・研修期間中、上記1で記したNPO法人栄光ホスピスセンターが発行する機関紙『栄光ホスピトラ』に“ありがとう～忘れぬ患者さん～”と題した文章を掲載するなど、ターミナルケアに関わる考察を深める機会を持った。

- ・'13年2月24日～28日にかけては、他施設での見学・研修と云うことで大阪の淀川キリスト教病院 ホスピス病棟においての研修の機会を持った・
- ・主治医として担当した患者さん・ご家族 全てと良好な関係が持てたわけではない。実は過去を振り返っても稀な程 厳しいモンスターペイシェント(及びご家族)の担当医となった時があった。この時、研修生はスタッフの矢面に立って ひるまず恐れず誠実に対応し、また一方ではくじけそうになる Nrs. 達を支え励まし、一人の落後者(退職者)を出すこともなく最終的に安らかな最期を看取ることが得た。この件があって以来 研修生に対する周囲からの信頼度が急上昇した。きれいごとでは済まないホスピス緩和ケアの現場の厳しさを痛感した事であろう。

3 その他の成果

研修期間中には、病棟カンファランスにおいて研修生が積極的に発言したほか、2-②で記したような栄光会等主催の各種ホスピス研修会に参画するなど、研修生本人の自発性・積極性を引き出す意義深い場となった。